

第1回 山添村義務教育学校設立推進委員会 概要

令和6年7月23日（火）
18時00分～20時00分
山添村役場 中会議室

1 開会あいさつ

2 委員の委嘱について

委員長（大矢委員） 副委員長（川畑委員）

※欠席（植田委員、岡田委員）

3 協議事項

（1）これまでの経過について

事務局	【事務局から資料に沿って説明】 ○山添村義務教育学校設立推進計画 ○山添村義務教育学校グランドデザイン →4月19日の定例教育委員会と4月23日の村議会（全員協議会）で承認。 ○山添村義務教育学校設立推進計画【概要版】 →事務局で作成。今後の説明会等で活用。 ○山添村義務教育学校設立推進計画に係る説明会（保護者対象） →令和6年6月19・20日にこども園・小学校・中学校の園児・児童・生徒の保護者を対象とした説明会を実施。 →重複を除く総家庭数の30%が参加。 ○説明会における配布資料及び質疑応答の概要まとめ →保護者メール等を活用して一斉配信。 ○参加者アンケートの集計 →アンケート回収率は参加者の79%。 →参加者からの意見をワーキンググループで共有。
井岡委員	【質疑・応答・意見】 本推進委員会とワーキンググループ会議の開催は年間何回を予定しているか。
事務局	推進委員会は計4～5回、ワーキンググループ会議は計8回を予定している。
井岡委員	9年生が義務教育学校の総括的なリーダーとなるのか。
堺委員	義務教育学校全体のリーダーシップを考えた場合には、9年生は重要だと考えている。

窪田委員	特色ある教育を実施できることが、義務教育学校の強みになると考えているが、何年生からの取組を始めようと考えているか。
事務局	義務教育学校においては、9年間を見通した教育がメリットになる。ふろさと学習を発展させて、郷土愛を育むことを目的に、小学1・2年生の生活科や小学3年生以上の総合的な学習の時間を活用して「やまぞえ学（仮称）」のような教育課程（カリキュラム）を作成していくことが可能。また、外国語（英語）教育に特色を出していくことも可能であると考えている。義務教育学校としてどのような特色を出していくのかについては、しっかりワーキンググループで検討していく。
川畑委員	小学3・4年生が使用する社会科の副読本ができ、山添村の産業等について学んでいるが、中学校でも職業体験等で小学校での学びとつながる取組が行われている。このような実践を整理することで子どもたちの学びがしっかりとつながっていくと感じる。学びをつなげてことが、山添村のためにも持続可能な取組になっていくというイメージが事務局の話聞いて感じた。
事務局	現在、小・中学校それぞれにおいてコミュニティ・スクールを活用して山添村の将来を担う子どもたちの教育に様々な地域人材が関わっている。義務教育学校においても、山添村の資源（ヒト・モノ・コト）を子どもたちの学びに繋げていくにあたって、教職員だけでなく学校に関わっている地域住民も同じ目標を共有しながら9年間の子どもの成長を見通した活動を進めていける学校づくりが重要になってくると認識している。
窪田委員	外国語（英語）の取組について、地域にも英語の得意な方がおられる。こども園で英語教室をされている方もいる。そういう方にも参加してもらうことで、子どもたちの学びも充実していくと考える。
池住委員	小学5・6年生は授業として、小学3・4年生は活動として英語について学習している。小学1・2年生は英語の学習をしていないが、義務教育学校となることで、学習することが可能となる。加えて、現在、海外（フィリピン）の大学と連携できることはないか検討している。今後、地域人材の活用も含め、学びのつながりを創っていくことも一つの考え方としてある。また、社会科の副読本に関わって、副読本には、山添村の様々なこと（歴史や文化など）が凝縮されている。例えば、小学6年生の社会科で山添村の歴史を取り入れたり、音楽科で山添村のわらべ歌を取り入れたりすることも考えられる。このようなことを今後のワーキンググループでも検討していきたい。
川畑委員	私は中学校で地域コーディネーターをしているが、そのような情報を地域と共有していくことで、子どもの成長を支えていけるような取組に参画していければと思う。
井岡委員	小学校では、1～6年生まで縦割り班活動をしているが、義務教育学校になったときの縦割り活動はどのような活動をイメージしているか。

事務局	すべての活動を1～9年生の縦割りでは、教職員も考えないだろうと思う。各学年区切り（1～4年生、5～7年生、9～8年生）の縦割り活動があっても良いし、全学年（1～9年生）の縦割り活動があっても良いと考える。例えば、給食に関わる活動においても、小・中学校が協議をして考えていくべきだと認識している。また、縦割りで活動することは、下の学年の子どもたちは上の学年の子どもたちにあこがれを抱き、上の学年の子どもたちは下の学年の子どもたちに対する責任感が育つことをねらいとしているので、それぞれの活動の趣旨やねらいをしっかりと考えた上で協議していくことが望ましいと認識している。
堺委員	これから教職員で協議していくことになるが、例えば、清掃活動において、清掃場所を決めて縦割りで活動する等のイメージは持っている。また、長野県では、音楽科で全校音楽という形態をとって合唱に取り組んでいた。私が授業参観したときは、各パートを縦割り班にして、9年生を中心に話し合いながら、授業が進められていた。山添村においての具体的な活動は、これから小・中学校で協議していく。
井岡委員	令和8年度に小学校を卒業する子どもたちは、令和9年度の中学校入学ではなく、義務教育学校の7年生になる。令和9年度の4月に義務教育学校開校となれば、中学校の入学式は無いと認識している。中学校の入学式に代わるようなセレモニーを行うことは可能か。
事務局	儀式的行事として学校と協議していくことになるが、進級式等として実施することは可能だと考える。
川畑委員	教科書は小・中学校の教科書に準じて使用することになるのか。
丹下委員	様々なやり方はある。どのような教育課程（カリキュラム）を作成するかに関わる。例えば、中1の内容を少し前倒しして行うことは可能である。各学年の教育内容を組み替えることも可能ではある。ただ、あまり大きく組み替えてしまうと転出入の際に支障が出る可能性もあるので、学習指導要領に則って何を学習したのかを指導要録に記入していく必要がある。何かを前倒しするということは、何かを後回しにすることになる。
事務局	児童生徒の転出入のことも踏まえ、現実に関が可能なのかについては、ワーキンググループ等で検討していく。
福田委員	今の中学生の様子はどうか。上下関係などを知りたい。
大矢委員	一保護者の意見として、先輩・後輩の関係性はあるが厳しいとは感じない。
井岡委員	小学校で縦割り活動をしているので、既にお互いの顔を知り合った状態で3年間で過ごすことになる。
川畑委員	中学生と一緒に活動するが、先輩と後輩が仲良く活動している印象がある。部活動での先輩・後輩の関係性も高校進学や社会に出たときのための学

	びの場につながっているという認識で見ている。
堺委員	昨年度、今の中学1年生が小学6年生のときに中学校の体育大会へ参加した様子を見ていても、生徒会を中心に中学生が小学生のことを考えてくれていた。
事務局	小学校と中学校が1つになり、1年生から9年生までが1つの学校で過ごすことになるが、教職員も同じである。1年生から9年生までの子どもたちを小・中学校の教職員集団が指導していくことになる。実際に学校生活の中で様々なことは起こるだろうが、9年間の子どもの成長を見守ることができる教職員が指導することは義務教育学校の強みになる。
井岡委員	実際の様子がわからないがゆえに、不安が募ってくる。モデル的な学校の動画等を見せてもらえれば、保護者もイメージできる。そのような動画等は無いのか。
事務局	県内・外の義務教育学校の様子がわかるような動画がないか探してみる。
丹下委員	県教育員会事務局には学校の様子がわかるような動画等はない。文部科学省にあるか問合せてみる。
福田委員	6月に保護者向けの説明会があったが、2回目の説明会は予定しているか。
池住委員	具体的なことは何も決定していないので、現段階での2回目は実施できない状況である。制服等の具体的なことを検討したら、この場で協議していく。
窪田委員	県内に義務教育学校が9校あるが、県教育委員会として義務教育学校の長所や短所についてまとめた文書等はないのか。
丹下委員	県教育委員会としての集約はしてはいないが、義務教育学校を開校するにあたってメリットやデメリットについて各町村教育委員会が住民説明等をしているので確認してみる。

(2) 今後の方向性について

事務局	【事務局から資料に沿って説明】 ○令和6年度義務教育学校設立推進委員会ワーキンググループのスケジュールについて →5月と6月に計2回、各ワーキンググループを開催。 →今年度は計8回（5月・6月・7月・9月・10月・11月・1月・2月）の開催を予定している。 ○義務教育学校に係る校名案の募集について →義務教育学校に係る校名案の募集を、広報「やまぞえ」や山添つながりアプリ「めえめえ」を活用し、広く村民から募集する予定。
-----	---

	→応募期間は9月2日（月）から9月30日（月）まで。 ○今後の山添村義務教育学校設立推進委員会開催予定について →10月頃に施設建築設計に関わる推進委員会、12月頃に校名の決定に向けた推進委員会、3月頃に今年度のまとめに関わる推進委員会を開催する予定。 【質疑・応答・意見】
窪田委員	認定こども園の時も園名（愛称）を募集していたが、応募数が少なかったように思う。周知することにおいて工夫が必要ではないか。例えば、防災無線放送の活用や区長会に周知の依頼をしてはどうか。
事務局	周知の仕方については検討してみる。
大矢委員	ワーキンググループのメンバー表はないのか。
事務局	4月と5月は、各部会で分かれるのではなく、全体で協議する内容で実施している。各部会のメンバーが確定したら報告する。
井岡委員	ワーキンググループでどのようなことを検討したのかを知りたい。
事務局	ワーキンググループの進捗状況等について、毎回の推進委員会において報告する。
井岡委員	施設等に関して、専門家の方はついているのか。
事務局	現在、専門の方についてもらって、基本計画や設計の相談をしている。 12月までには基本設計を完成させたいと考えているので、10月の推進委員会で協議できればと考えている。
川畑委員	3つのワーキンググループに分かれているが、自分自身の所属するワーキンググループのことは理解できると思うが、他のワーキンググループの内容は、教職員同士がどのように共有しているのか。
事務局	昨年度から各部会で話し合った内容について Google の Classroom を活用して共有している。また、各学校にもお互いの部会で話したことは、職員会議等を通じてできるだけ共有してもらうよう話している。
窪田委員	学習に哲学を取り入れられるか検討できないか。
井岡委員	哲学のイメージがしにくい、道徳の授業で同じようなことをしているのではないか。
堺委員	学校の教育内容と照らし合わせたときに少しイメージがしにくい。
川畑委員	中学校には、哲学の道（著名人の言葉を札に書いて木に掛けてある）があ

	る。
池住委員	学校教育としてどのような授業ができるのかを研究する必要がある。子どもたちに自分の意見を持たせるうえで、様々な考え方にふれさせることは大事だと認識している。
川畑委員	小学校や中学校の児童生徒には校名案募集のチラシを渡さないのか。
事務局	まずは、小学校と中学校が1つになって義務教育学校が開校することを子どもたちに話することが必要だと考えている。もし可能であれば、先生方と子どもたちが校名案を一緒に考える時間を確保してもらえたらとも考えている。
堺委員	子どもたちも小学校と中学校が1つになり、義務教育学校が開校されることをある程度知っているかと思うが、正式に学校から伝えられていない。夏休み明けに話をする機会を作れればと考えている。それに合わせて校名案の募集についても話できれば、ちょうど良い機会になるとは考えている。
池住委員	子どもたちに義務教育学校の開校をどのように伝えていくか懸念していた。子どもの発達段階に応じて、教員から伝えてもらうのが一番伝わるのではないかと考えている。
窪田委員	校名募集について、PTAからもさくら連絡網等を通じて発信していただければ、保護者に伝わるのではないかと考えている。
堺委員	中学校とも相談する。

(3) その他

- 本日の協議内容については、次回の教育委員会及び村議会にて報告する。
- 今後、山添村ホームページで義務教育学校設立に向けたページを開設し、情報発信に努めていく。
- 次回の推進委員会は10月頃を予定。時期が近づいてきたら日程調整することを確認。